

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろいろ考えがあるから面白い
いろいろ人がいるから楽しい

No. 623

2022年6月 **晩**
村

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

ま・く・じ

- 全国まちづくり交流会in馬路村 2
- 念願かなって馬路村へ 7
- 文月たなばたの節供 8
- 馬堀海岸～たたら浜 9
- 「古代中国の24時間」(後) 10
- お便利から 14
- 沖縄本土復帰50年に思う 20
- 恣意的運用の懸念 経済安保法 21
- 若者の声 22
- 「戦争」に対する答は「平和」 23
- ウクライナの戦争に思うこと 24
- 戦争の背後にあるもの 26
- け・い・じ・ば・ん //

プーチン大統領は悪い。
でも、ロシアは「悪」で欧米は「善」と割り切るとよいだろうか。
北朝鮮、中国の動きは危険だ。だからといって「敵基地攻撃だ」「防衛費倍増」「改憲」だと突っ走るとよいのだろうか。
いま、立ち止まって考えるときではないか。
「絶対悪」の戦争を避けるために。
(巻末にそんなページを組んでみました)

まだ13名が不明、次号に。この見本誌をみて新たに

月 日現在の
会員数 名

「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を

郵便局で 00100-2-20630
「雑報友の会」
へ 併い込んで下さい。

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)

カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、切手趣味週間

うまじ
全国まちづくり交流会 in 馬路村

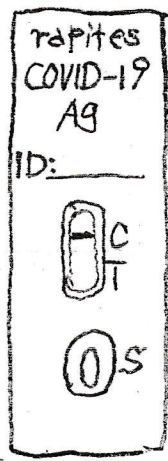
2000年、愛知県足助町(当時)で始まった「全国まちづくり交流会」。第17回(福島・飯館村)のあとコロナ禍で2年ぶり、第18回を高知県馬路村で開催することになった。

馬路村から書類が届くと、その日のうちにFaxで申し込んだ。Faxが届かないことあるうかと、封書で追いかけた。

会場も私い込みこれで安心と思っていたら、出発が近づいたところにまた書類が届いた。「出発の日の子日前から3日の間にPCR検査もしくは出発前日か当日に抗体検査をして陰性を証明すること」とある。

ぼくは慌てた。最初の書類にはワクチン接種とよいとあったからだ。ぼくは病院に行かないかと「かかりつけ医」をたない。近くの医院でPCR検査をしてもらおうと思ったら「できません」とこぼれない。抗体検査も、結果写真によって持参となっている。ぼくはどう写真をとるのかもわからない。間際に方針を変えるなんて「後出しジャンケン」じゃないか、行くのはやめようと思った。

しかし、久米真弓さんがかり合ってくれた結果、写真でなくして検体持参とよいということになった。さらに、急な変更は村内に陽性者が出たためとわかった。それで納得。薬局で検査キットを買い、説明書をよく読んで無事検査を終えることができた。



6月3日(金)。東京発の「のどみ」にのり、岡山で特急「南風ク号」にのり替え。そこで鈴木正士、久米、原田さんと合流。



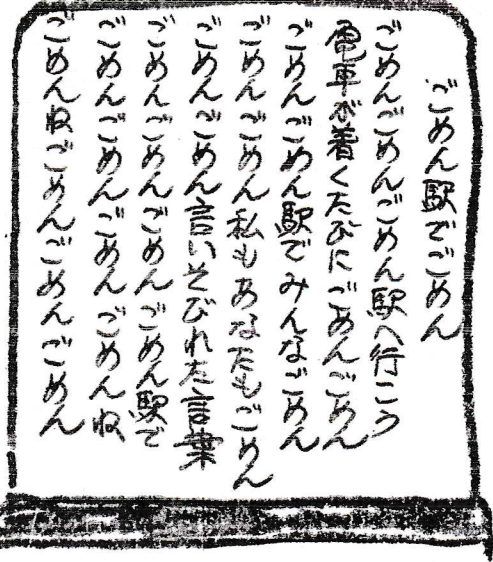
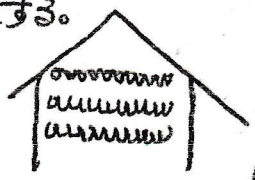
在来線の特急はいいですね。無機質でただ速いだけの新幹線と比べてあたたかみを感じる。

南風ク号は多度津で徳島に向かう「しおかせ号」と別れると山地に分り入る。ぼくは土讃線はほぼ60年ぶりだが、祖谷口、小歩危(にぼり)、大歩危などの駅名が懐しい。大歩危・小歩危は車窓からそのイメージがわかるが、岡島敦子さんが30年ほど前に行かれたという「祖谷の葛(おろち)橋」は渡ってみたい。「杉の大杉」も見たい。

南風ク号には「アンパンマン号」がついていて、車体外側と車内の天井には、やなせたかしのマンガキャラクターが一杯だ。後免駅で「土佐くろしお鉄道」にのり替える。ホーム端にはやなせたかしの詩を彫った石碑があった。

三つめの「のいち」駅で高知空港からのバスを待つ。ここで伊藤奈江さんと合流。バスは海岸沿いを東に向かい、安田町で左折、安田川に沿って北上する。

その途中、土蔵風の建物の壁面に瓦を底が露れり風に何層もとり付け



に到着。もっと上まで行けると思ったが、ここで足止め。かつて土佐藩によって300年間守られ、日本三大美林に数えられる魚梁瀬杉の林を見たかったが、残念。橋のそばにたつ樹齢300年ほどの杉にその面影を見る。上流の杉は伐採が禁止されているが、今でも樹高30m以上の杉がノソク千本残っているという。正土さんは興味深そうに杉を見て回っていた。

午後は近くの村役場ホールで講演会。地元紙を使った会場が見事だ。

まず村の劇団「杉ぼっくり」による「森林鉄道ものがたり」が演じられた。

次いで、山崎出(いずる)村長の挨拶。

「村の人口は832人、この一年半に増減なし。なぜなら村に産業があるから。昼間人口の方が多いのは高知市と馬路村だけ。人口減でも人材増の村にしたい。それには、当事者意識を持った人を育てること。人わらい、村うるさい、未来にぎわう(?)村にしたい。」

—— 講演① ゆずの取り組みについて (元農協組合長 東谷(とや)望史さん) ——

馬路はかつて管林番村だった。近隣町村との合併に反対したのは、ゆずの存在。杉は伐ったらいつかは無くなる。その時にどうするか。

元は小さなゆず産地だった。当初は加工に消極的だったが、ゆず加工品に力を入れた。「ごっくん馬路村」(果汁飲料)がヒット。来村者がふえた。東京へ出かけてPRし、果汁を使う文化をひろめた。ダイレクトメールで販路を拡大、ゆずを売りながら馬路村を売っている。通販で個人向け商品を拡大、そのオペレーターには村の女性を登用した。景観づくりは北海道や黒川村(熊本)に学んだ。



第18回全国 まちづくり交流会 in 馬路村



まだ村がある」
6月3日(金)
4日(土)
5日(日)

馬路村をここまで大きくした東谷さんは、菅原敬一さん(『かがり火』発行人)にごっくん。毎号裏表紙に広告を出している。その図柄が右のようにふと目ざわがるもの。絵を描く菅原さんは、その作者に会わせてほしいと、前夜祭で東谷さんに頼み込んだ。願いが実って多忙な作者が高知市から駆けつけてくれ、別室で面談の運びとなった。^{この日}菅原さんから。

—— 講演② 『かがり火』34年を振り返って (発行人 菅原敬一さん) ——

東谷さんには、毎号広告を出していただき、感謝。

200号で休刊となったが、日本人の民度の高さ、日本人の薄さを感じたのは『かがり火』を手がけてから。その人たちのことを言語化する、代弁するのが仕事と思っている。

松本克夫さんには、主な執筆者として助けていただいた。

昨年正月冠動脈を手術。順天堂大学病院で「神の手」と呼ばれる先生の弟子に執刀してもらった。術後、4人部屋で痛みを耐えていると、同室の人が「死にたい」とくり返す。それを

きているうちに、安穏な気持ちで過ごすことができた。「かがり火」編集長の内山節氏(哲学者)がかねて「人生は関係する総体」と言われることがわかった。

しかし、「かがり火」を続けてと要望されても、かみさん^{みら}を論破できずにいる。

—— 講演③ 土佐シロ- 農家に嫁いで (有)はたやま^{みら}楽社長 小松圭子さん
愛媛新聞の記者から、地鶏「土佐シロ-」の農家に嫁いだ。



畑山は道が狭いが溪谷がきれい。なぜこの人が生まれ育ったところで暮らせないか、考之続けた。

土佐シロ-は、マンガ『美味しんぼ』に登場、『dancyu』などにもとり上げられた。それでも住民は減り続け、小中学校は廃校に。しかし、土佐シロ-なら人を呼べる。加工と宿泊で相乗効果を考之た。その結果、来村者が70人から7800人にふえた。

でも現実には甘くない。コスト高、震災、出稼之。マスクがとり上げて客はくるが、忙殺されて立ちゆかない。畑山で楽しみたいから始めたのに、違うよね。

そこで土佐シロ-部門の改革を考之た。味をみ出してくれる店、シェアとつながりを持ち、炭火焼は客任せでなく会話をしながら私たちが焼く。環境を楽しんでもらい、長時間滞在してもらいたいと客との接点をふやし、リピーターに結びつけた。

それでも試練が続く。新たな加工所建設を目指したが、伊予市の指定管理完了で、建設費4千万円に対し補助金は出ない。クラウド・ファンディングで目標500万円達成。

なにも試練は続き、大雨で県道が流され孤立。救助なく4日間を過ごした。

試練はなにも続く。コロナ禍で営業は停止。

22年2月、「シロ-のぶら」開業。星空観望、森林浴、土佐シロ-合宿など畑山で生きたい。そのため生業を創り続ける。

村があるから町がある、町があるから村がある。一極集中ではなく、村には村の価値がある。それを生かすことで周辺の町が潤う。田舎は都会の荷物ではない。田舎の価値をきちんとみつけ、自分自身を含めて畑山を楽しみたい。畑山で待っています。

(土佐シロ-は、卯用種の土佐地鶏にロードアイランドレイドを交配したもの)

—— 参加者からの発言 ——

● 福島県飯館村前村長 菅野典雄さん

3年前、いわて村で第17回「全国まちづくり交流会」を開催。大震災・原発事故で5500人の全村民が避難したが、いま戻りかけている。「まちづくり」のコンセプトで村づくりをいかにやていこう。ものは考之よう、全員避難もよいところがある。あの日1/1日を、「当たり前のことをありがたく思う日」にしている。

● 大日本報徳社社長・東京学芸大名譽教授 鷲山恭彦さん

元掛川市長 榎村氏急死のあと社長を引き継ぎ、二宮尊徳の報徳思想をひろめている。ドイツ文豪だが「不象具徳 以徳報徳」は西洋思想にあまりない日本独自のもの。

● 与論島観光協会 (鹿児島県)

今年 復帰50周年の沖繩・国頭(くにがみ)村とは、25kmの海路をへたてる。
来年第19回「全国まちづくり交流会」を当地で開催予定。

● オホーツク寒気団 (北海道・佐呂間町) 船木航二さんほか

ホタテ、カボチャ、アスパラガスの産地。人口5千人弱だが社会教育委員は11名と多い。
人と出会う楽しさ、面白さ、価値、自分への投資。よい出会いと学びを得て帰りたい。

● 茨城県・(株)さかいまちづくり公社

溝口久さんの紹介で今回参加。道の駅、ふるさと納税、まちづくり事業を手がける。
3名だった従業員が147名にふえた。

● 21世紀の足助(あすけ) (愛知県)

● 開田高原クラブ (長野県)

● 恵那市観光協会 (岐阜県)

● 熊本・玉名市

● 阿波勝浦 井戸端整 (徳島県)

● 宮城県丸森町

省略

船木さんから依頼され、

猫の手クラブを紹介。

(会場で水野俊哲さん(長野・上田市)と握手、手が痺れた)

この夜は、場所を変えての大交流会。全員参加の阿波踊りで盛り上がる。

6月5日(日)、くもりの中雨。

8:30. 宿を出る。東谷実行委員長はじめ馬路村の皆さん、ありがとうございます。

10:30. 高知空港で溝口さんと、高知駅で山崎さんと別れ、康江、久米、原田さんとばくは高速バスで松山へ。道後温泉で入浴、コンフォートホテル泊。

6月6日(月)、雨の中(も)。

松山観光港からジェット船で玄島へ。宮島を見て帰宅。

〜 橋岡伸守さん(埼玉・草加市)の便利 〜

◆ もうすぐ梅雨の季節を迎えますが、お変わりないご様子。

このハカキが着くころには、高知県の馬路村に行かれていることと思います。

以前にも書きましたが馬路村の魚梁瀬千本山は、私が学生時代に植生調査をしたところであり、ご一緒させていただきたいところでしたが、残念ながら体力的に困難な状態となりました。お帰りの紀行文を楽しみにしています。

魚梁瀬は、雨の多い地域であり好天を祈っています。

(ご一緒すればさらに趣深かったのに、残念でした。)

次は、江に康江さんの文が。

私は雑誌「かがり火」の読者です、掲載されている馬路村の商品の広告のイラストが好きで、どんな人が書いているのだろう、どんな所だろう一度馬路村へ行ってみたいと思っていました。6月3日～5日、「第18回全国まちづくり交流会」が開催され、参加することにしました。



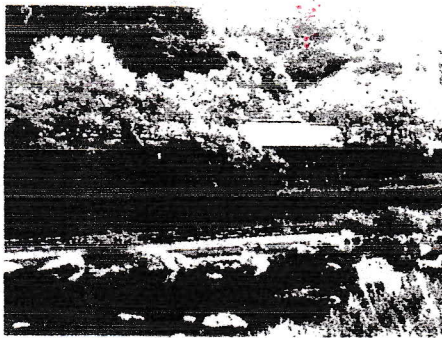
ところが困った、当初応募要領にはワクチン3回接種が条件だったが、PCR検査か抗原抗体検査の証明がある、後者の場合前日か当日のものです。参加費振り込みも金融機関名がわからず、郵便局の職員を煩わす始末。

何とかクリアし、高知竜馬空港へ到着しました。行くまでは些か心萎えていましたが、結論!!、始め悪し、後よし、やはり行ってよかった。

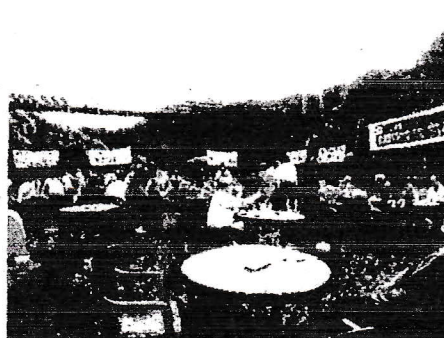
空港からバスで1時間余り、安田村までは海岸線を走り、そこから安田川に沿って山へはいります。とてもどかな人口1,000人の緑豊かな風景はイメージどおりでした。

参加者は約100人で、安田川天然レストランでの前夜祭では、たいまつのもと、アユの塩焼きやオホーツクのホタテ貝の塩焼き、鯉の刺身など、自然の味を堪能しました。

オプションツアーでは惑うことなく、魚梁瀬千本山と森林鉄道の見学に参加しました。



川の向こうの馬路温泉に宿泊



安田川河川天然レストラン 厚正・久米さん、何しているの



会えたのです、あの絵とイラストの作者

実行委員長東谷望史さんへ「馬路村の商品の絵やイラストを描いている人に会いたい」と口走ったところ、親切に電話、会場へ来て下さったのです。お名前は田上康昭さん63歳でした。ところが紹介されたとき、講演を聞きながら少し眠気を催しぼんやりしていました。慌てて外へ行きお話することができました。



絵のイメージへ惹かれて参加したこと、イメージが商品を引き付けること。私も素人ながら絵を描いていることなど話し。描かれている絵はアクリル画だそうで、他に描かれているレストランの壁画などの写真も見せてもらいました。とても嬉しい旅でした。皆様に感謝！有難うございました。

(15ページにお便りが)